

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名	伊勢原市立竹園小学校
-----	------------

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中でおおむね使うことができている。 ・「読むこと」については、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫をすること。 ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字の意味を正しく理解し、文の中で使い分けること。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「図形」については、台形の性質について理解し、選ぶことができている。 ・「数量関係」については、棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができている。 ・「量と測定」については、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を、おおむね記述できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること。 ・示された除法の式の意味を理解すること。 ・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算すること。 ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること。
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の問題について、回答を文章で書く問題で最後まで回答を書こうと努力している。 ・算数の授業で学習したことは、児童はおおむね将来社会に出たときに役に立つと思っている。 ・算数の授業で、新しい問題に出会ったとき、児童はおおむねそれを解いてみたいと思っている。 ・コンピュータなどのICTが好きで、活用したいと思っている児童が多い。 ・将来の夢や目標を持っている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で自分で計画を立てて勉強をすること。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること。 ・学級活動における学級での話し合いを活かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組むこと。

2① 授業の充実に向けた重点的な取組

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の本や分野に偏ることなく、様々な分野の本を目的に応じて読み、内容の深い理解や知識につながるようにする。 ・自分の考えを持ち、相手の考えとの同じ点や相違点などを比較しながら話すことができるよう、ペアやグループでの話し合いを行っていく。 ・目的や意図に応じて、要点をまとめたり、自分の考えやその理由をはっきりさせたりしながら文を書けるようにする。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算や図形などの基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ・式の意味や計算の仕方などを考え、友達と伝え合う活動に取り組み、深い理解につながるようにする。

2② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項) ※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方に知っておいてほしい内容

<p>本校の子どもたちのために、御家庭や地域の方々、日頃より御支援、御協力をしてくださっていることに深く感謝しております。調査結果を踏まえ、子どもたちの成長につながるよう、学校でもさらに指導をしていきますので、引き続き御家庭や地域の方々の御協力をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣の大切さを話し、早寝・早起きなどの生活習慣が身に付くように声かけをお願いします。 ・難しいことに直面したとき、失敗を恐れなくて挑戦する姿勢がやや弱いところがあります。目標に向かって取り組み、達成したときの充実感を味わい、子どもたちが自信を持てるようにしたいと考えます。御家庭や地域の方には、子どもたちが頑張っている過程を認め、励ましの声かけをお願いします。 ・人助けの精神や他の人の役に立つ人間になりたいという気持ちがやや少ないところがあります。自分のことだけでなく、他の人のことも考えて行動できるよう、ボランティア活動や地域の行事などへの積極的な参加、公共心を養う声かけをお願いします。 ・子どもたちは、ゲームやタブレット、スマートフォンなどの情報機器に触れる機会が多く、放課後の過ごし方の中でも中心的なものへと変わっています。情報モラル教育に学校でも取り組みますが、御家庭でも使用上のマナーやルールなどの話し合いをお願いします。
